

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム2016版 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	植田寮		階数	地上3F
建設地	名古屋市天白区植田山二丁目101番地		構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域		平均居住人員	200人
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定		評価の実施日	2022年3月1日
敷地面積	13,595 m ²		作成者	
建築面積	2,644 m ²		確認日	2022年3月8日
延床面積	6,343 m ²		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

= BEE1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184)

②建築物の取組み 82% (152)

③上記+②以外の 82% (152)

④上記+ 82% (152)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<h4>総合</h4> <p>住宅地の中で施設改築工事として、近隣との良好な関係を保つよう建物の距離、目隠しルーバーにより、相互のプライバシーを保つよう配慮した。敷地は丘陵地にあり、排道の高低差を樹木、植栽基礎による自然勾配法で整備する。既存施設の共同生活廊を併用するにあたり、施設を適正規模とするため、入居者の高齢化に対応できるスペースに配慮しながら、最小限のプライベートスペースを確保した。</p>	<h4>その他</h4> <p>建設工事に先行する土工事において、整備地盤高さを建物地下躯体整備により発生する掘削部分土量が最低限となるよう計画した。入居者居室は個別空調とし、各階に設備バルコニーを設け、室内中庭から室外への冷暖配管距離を短くして省エネに配慮している。災害時に入居者避難所として各階個別トイレが災害時トイレとして使用できるよう、地下ピットに緊急汲排水槽を設けている。</p>	
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>入居者居室は個別空調として外壁面方向が異なる室の温度環境が制御できる計画とした。換気は熱交換形換気機により省エネに配慮した。居室は必要採光環境を確保した上で外壁、屋根面で充分な断熱性能を持たせている。喫煙率が高く、近隣に配慮し、建物内に充分な換気設備を持つ喫煙室を併用して整備した。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>用途面積、階高をコンパクトに計画し、経済性に配慮している。入居者が清掃を行うため、廊下は大型木として壁面の傷付きを保護し、トイレはビニル床シートを巾木として立上げ、壁面は化粧ケイ酸カルシウム板とするなど清潔性、耐久性が高い材質を選定した。個別空間は故障時に個別対応が可能である。鉄筋コンクリート造ラウンジ構造として耐震性をなくし、施設の柔軟な更新性に配慮した。</p>	<h4>Q3 室外環境 (敷地内)</h4> <p>既存緑地を一部保存しつつ、敷地外周を緑化し、地域の環境に配慮した。居室ゾーンは中庭(光庭)により採光、通風を確保している。1階は共用部から中庭を利用でき、1階食堂はウッドデッキを設けた中庭と一体利用が可能とした。入居者による屋外環境整備活動のため、畑、花壇を設けている。建物外周は防犯カメラ設置により、施設の安全に配慮している。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>BP₁、BP₂共0.8以下の高い外気性能を持つ計画としている。居室外壁面には設備バルコニー、柱・梁のアウトフレームが設置となり、直射日光の遮断を図っている。トイレ用個人入浴センサーにより管理している。運用管理体制は既存施設で確立されており、継続した運用管理が行われ、責任者が指名されている。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>雨水をトイレ洗浄水に利用している。リサイクル材として地下躯体に表層セメント、その他再生砕石、再生細粒アスファルト混合体、ビニル床シート、樹脂シート材を利用した。塗料類、シーリング材には化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を使用した。断熱材にはODP=0、GWPが低い発泡剤を用いた材料を使用した。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>植栽計画は樹種構成による排出基準温度を大幅に抑えている。年間最多風向(北北西)夏季最多風向(南南東)について敷地の向きに対する建物向き、高さの出しが小さいため、風下となる地域への風通しへの影響が小さい。雨水排水は名古屋市公共建築物に指定される雨水流出抑制対策を行い、建物地下ピットの雨水流出抑制槽、オリエンスにより流出量を管理している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

植田寮

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.6
	
2. 自然共生	評価点 = 1.9
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.5
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。